



# 浜小だより

茅ヶ崎市立浜須賀小学校

2023年5月30日

6月号

学校教育目標 「未来をひらく浜小の子」～遊ぶ 学ぶ 助け合う～

校長 青柳 和富

## 「子どもたちのよりよい成長を信じて」

5月に何度か大雨が降りました。水たまりが大好きな子どもたちは、わざわざ水たまりの中を歩きます。中棟と南棟の間にできる水たまりは、とても大きく（およそ10m×40m）もはや池です。遊水池を兼ねる学校という建物の特性上、排水を雨水管に繋げることができず3つ設置された柵からの自然浸透に任せるばかりですので、雨が上がった後は子どもたちの格好の遊び場となります。興味津々の1年生が果敢に中に入っていきますが、長靴の丈が短いことから、案の定靴下までびしょりです。履き替えの靴下も持ってきていますのでこれも貴重な生活体験の一つとしましょう。



今度は、上級生が水切り（小石を水面に水平方向に投げ、水の上を跳ねさせる遊び）を始めました。みんなのうまいこと。と、感心してばかりはいられません。上手過ぎて、対岸の友達にまで石が届きそうです。「人に当たると危ないから水切りはやめましょう」と声を掛けると、さっと止める子どもたち。一回りして戻ったときにも、再び水切りをしている子はいませんでした。こうしたやり取りの中でも子どもたちとの信頼関係が築き上げられていきます。歩道の歩き方、信号の待ち方然りです。教え導き、できたら褒める。子どもたちは認められ、任されることにより主体的に考え、選び、動き始めます。

さて、集団生活を営む学校において事案はどの学級のどの子どもの下にも起こり得るものです。4月からこの間、ご家庭と連携を取らせていただくケースがいくつかありました。事案は適切な対応ができれば子どもたちのその後の成長に繋がりますが、それができないと負の連鎖に陥ることが少なくありません。事案の解決に向けて何より求められるのは事実の確認とその後の対応によるリセットです。ここをクリアすることで子どもたちはよりよい生き方を身に付けていきます。対応の中で感銘を受けたのは、保護者の皆様の子どもの成長を信じその関わりに責任を持たれる覚悟です。「あなたのためにこの事案と一緒に解決していきたいから、知っていること、思っていることを全部話して」と保護者の皆様が切り出すと、学校では十分に聞き取れなかったことについても子どもたちがとつとつと語り出すのです。①嘘をつけば逃れられるという術を学ばせると負の連鎖から逃れられなくなる、②何より嘘をつかせてしまえばさらに我が子を苦しめることになる、③自分の至らなかつたところについて話すことは辛いかもしれないけれど、長い目で見ればそれを吐き出させることが我が子のよりよい成長に繋がる。そんな切実な思いが子どもたちの感情を揺さぶるのだと思います。私たち教職員がみつをさんのおっしゃる「そういう人」になれるかは分かりませんが、そうした保護者の皆様の子どものよりよい成長を信じる思いと覚悟について見做っていくべきであると強く感じました。みつをさんは、こんなこともおっしゃっています。「アノネ なるべくならうそはないほうがいいんだなあ オレそんなこという資格はねえけどね」全くの同感です。でも、子どもたちを信じる気持ちに嘘はありません。

その人の前にでると  
絶対にうそが言えない  
そういう人をもつといい  
相田みつを

「にげんだもの」文化出版局より一部引用